

第6章 構想推進のマネジメント

第6章では、第5章までを踏まえ、今後の構想のあり方を示す。

6-1 構想の推進体制

基本構想を実現するためには、関係団体(県、市、市民、浅間大社、観光協会、商工会議所、企業、NPO、学識経験者等)が、各々の活動を通じて、まちづくりに積極的に取り組んでいくことが必要となる。

さらに、関係団体が連携・協働することにより、「個々の活動では成し得ない相乗効果」を生み出し、まち全体の価値向上につなげていくことが求められている。

そのためにも事業を推進し、進行管理を行う「(仮称)富士宮市世界遺産推進会議」(以下、「世界遺産推進会議」という。)を組織し、実効性のある「まちづくり」を進める。(図6-1参照)

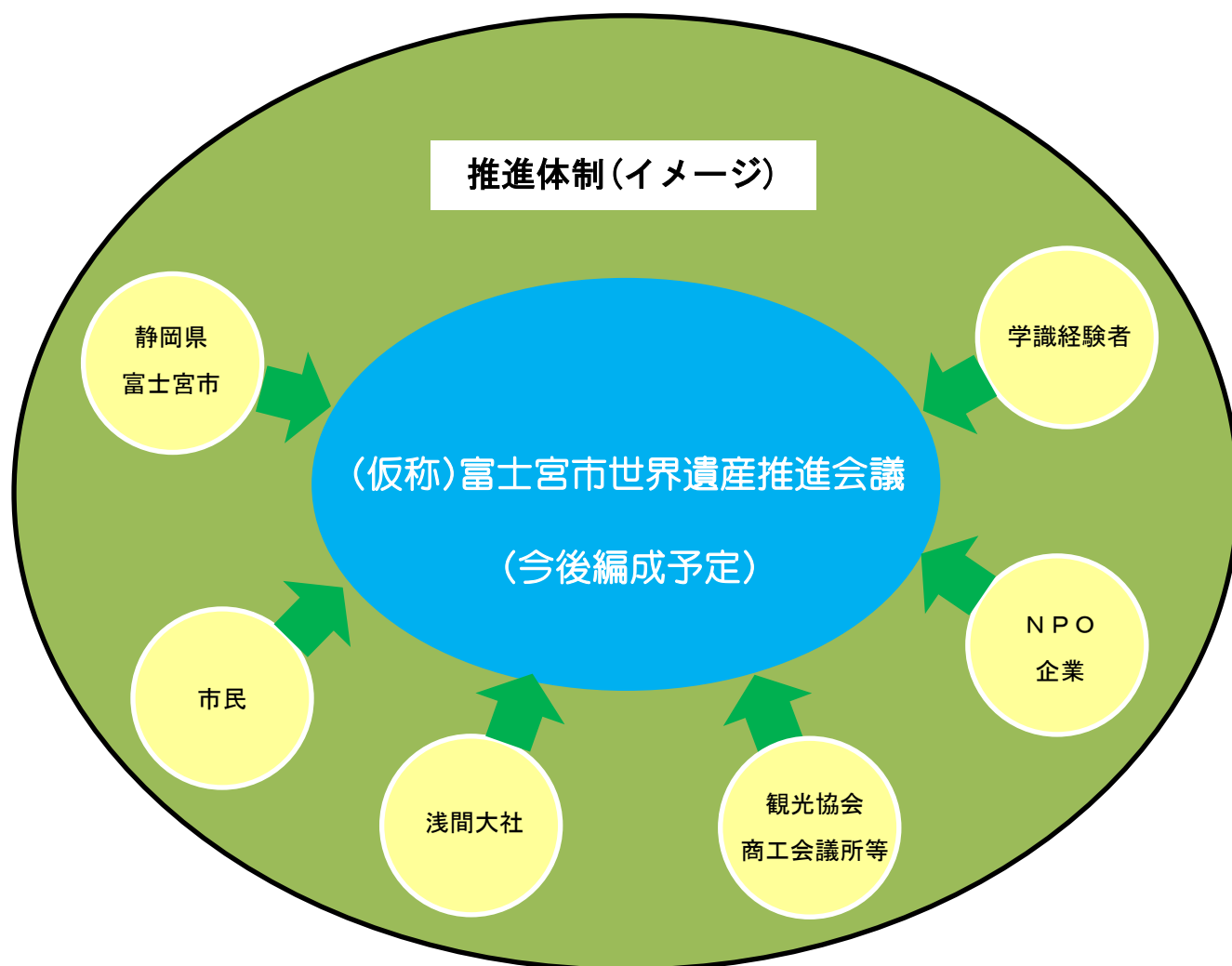


図6-1 推進体制図(イメージ)

6-2 まちづくりの進行管理

第5章に掲げる基本構想事業については、世界遺産推進会議において、官民によるソフト、ハード両面の各種事業の進捗状況を報告するとともに、継続的に点検・評価・見直しを行い、構想実現に向けた進行管理を行う。(図6-2参照)

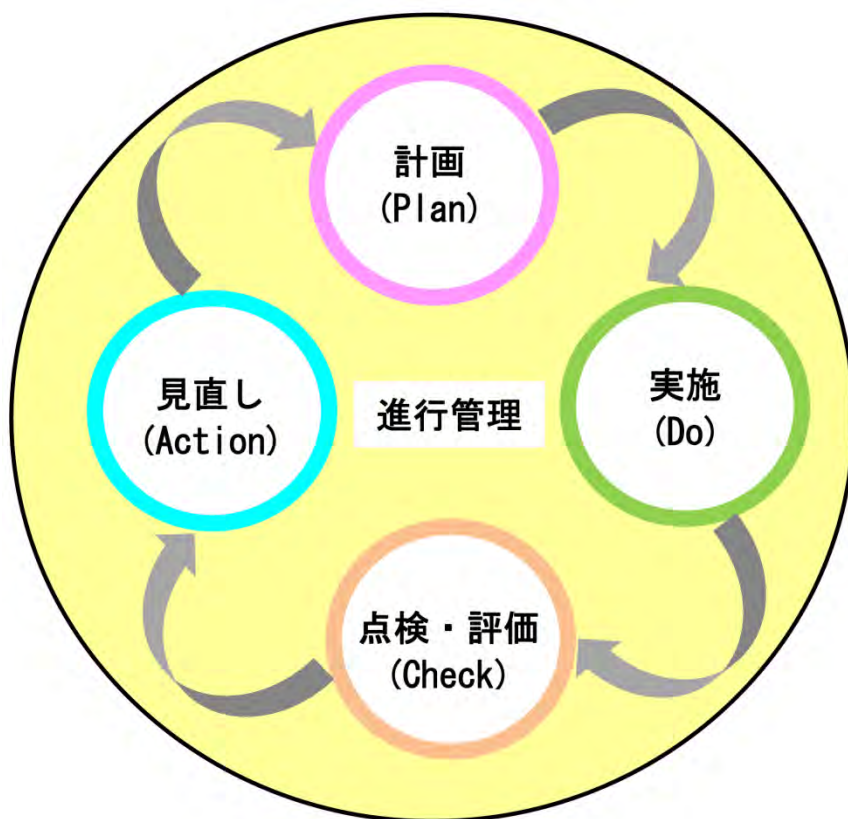


図 6-2 まちづくりの PDCA サイクル



世界遺産推進会議イメージ

6-3 構成資産の連携強化（情報ネットワーク化による相乗効果）

現在、市内の各構成資産の整備は、地域住民が係わりながら進めている。それぞれの歴史・文化の価値を「富士山信仰」「観光振興」「地域活性化」「保全と活用」等の視点で連携を強化し、情報発信する事で高い事業効果の発現を目指す。

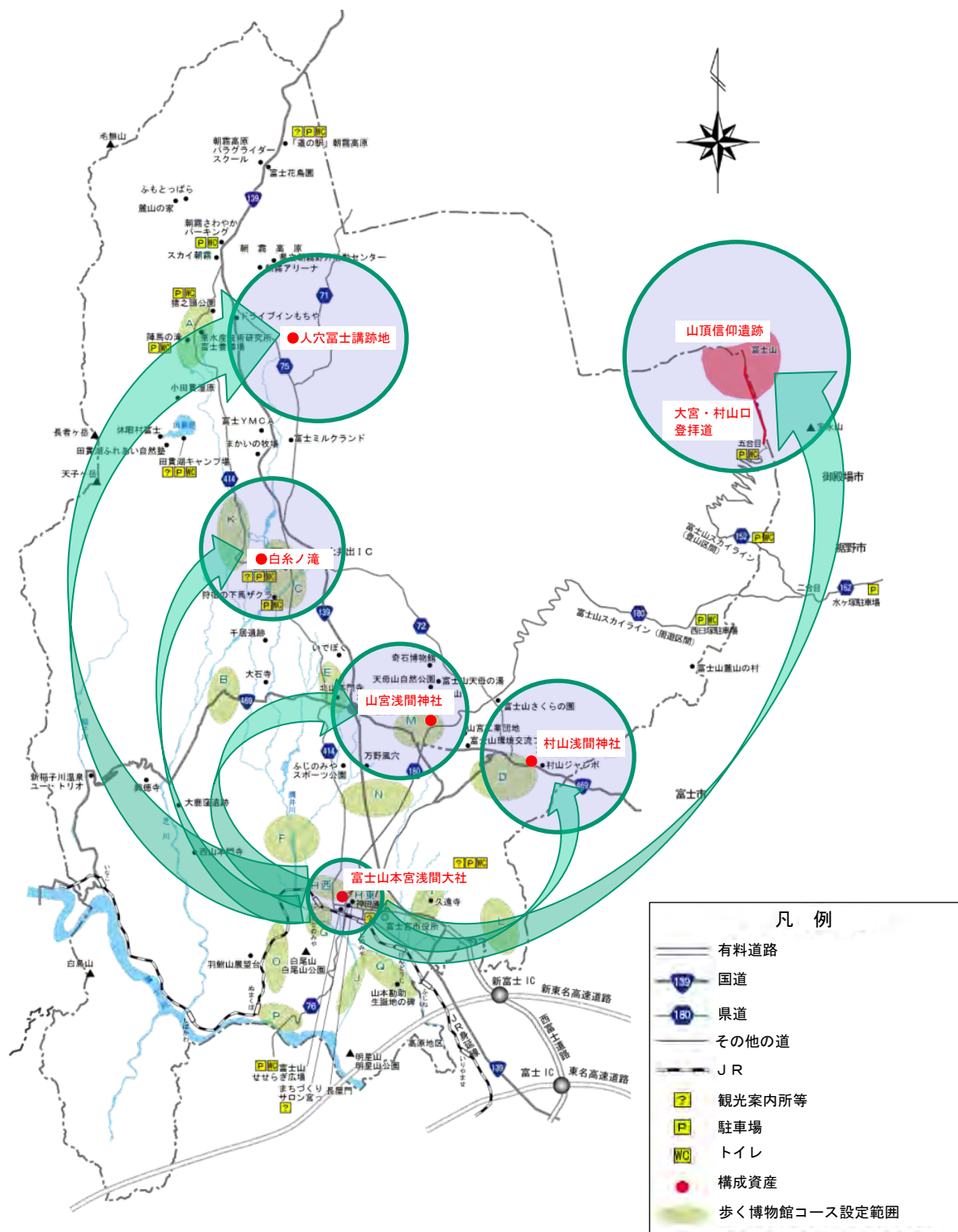


図 6-3 ネットワーク化による相乗効果

6-4 スケジュール管理

第5章において、個別事業計画の実施スケジュールについては明記しているが、実際の事業推進にあたっては、「(仮称)富士宮市世界遺産推進会議」により、関係団体と連携をしながら、適正なスケジュール管理を行う。

下記に「短期」「中期」「長期」の各スケジュールと主要な個別事業計画を併記する。

(図 6-4 参照)

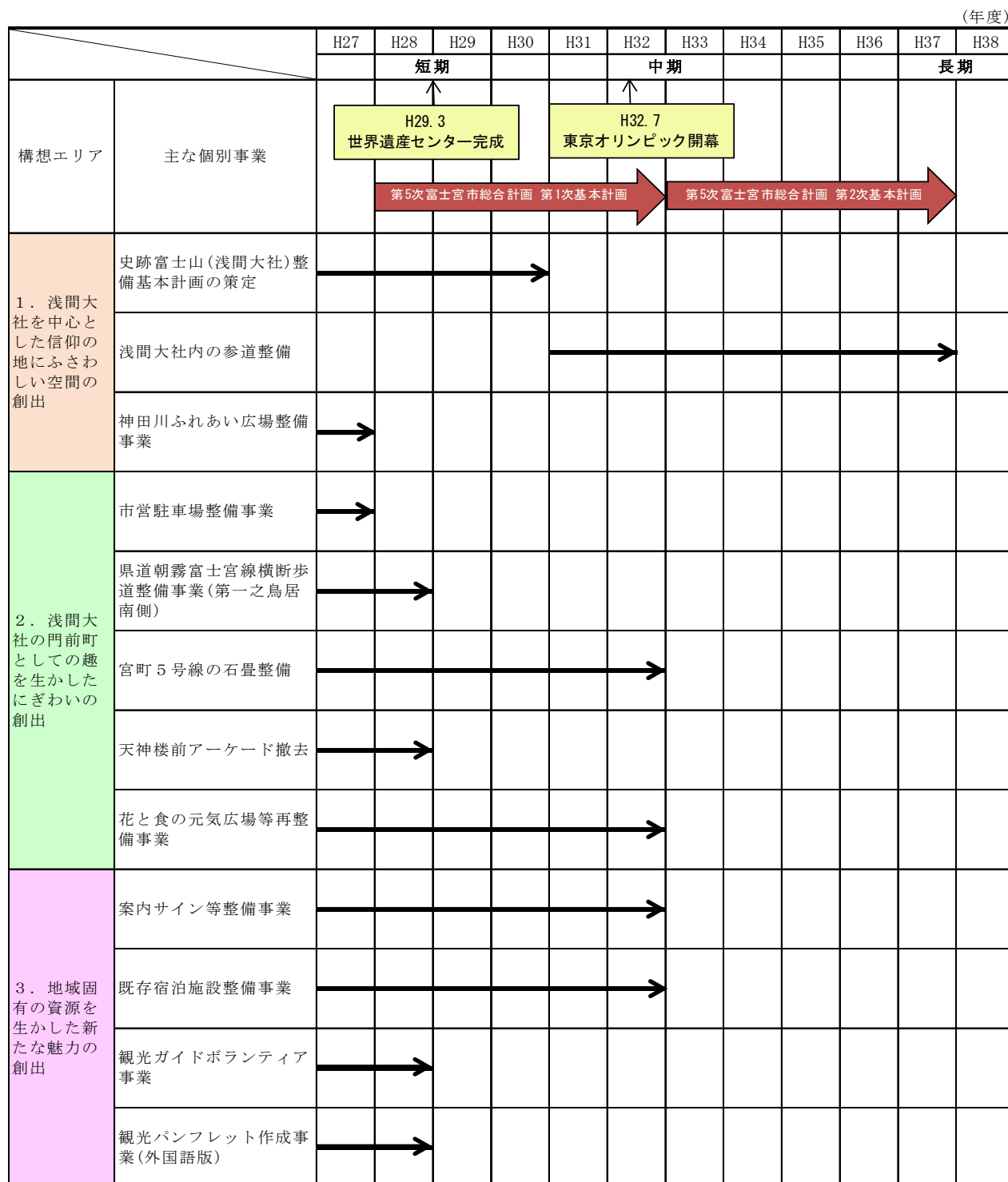


図 6-4 主要な個別事業計画スケジュール